

2020年3月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、下押し圧力の強い状態にある」と、前月の「基調としては緩やかに持ち直しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている」から、下方修正しました。変更は、前月に続き、2か月連続です。
- 需要項目ごとの判断でも、個人消費について、「ばらつきはみられるが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、全体としては弱めの動きとなっている」、観光についても、「新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化している」と下方修正しました。その他の項目には、変更ありません。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面については、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（3月調査）は、全産業の業況判断DⅠが+15（12月+24、+は「良い」超過）と、前回調査比で4期振りの悪化となりました（直近のボトムは19/3月の+7）。製商品・サービス需給判断は供給超過を大きく拡大し（12月▲5→3月▲15、▲は供給超過）、非製造業を中心に需給バランスは悪化しています。これを受けて、生産・営業用設備判断（12月▲14→3月▲5、▲は不足超過）や雇用人員判断（12月▲54→3月▲46、▲は不足超過、▲54は2001年6月の公表開始以来最大の不足超過幅）も引き続き不足超の状態にありますが、足もとでは不足感がやや後退しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、2月、引き続き、暖冬（旭川市の平均気温で前年比+0.7度）、少雪（旭川市の降雪量合計<94cm>で前年比▲28%、最深積雪<65cm>で同▲28%）の影響で季節商品等が伸びませんでした。①閏年で営業日数が前年より1日多かったほか、土日祝日数も同じく2日多かったこと、②新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、マスク等の衛生用品、紙類等の日用品に特需がみられたほか、外出自粛等の影響でカップ麺等の加工食品に需要増がみられたことから、前年比で増加しました。もっとも、3月入り後は、緊急事態宣言による外出自粛の影響から、遠方の客を中心に来店客数が減少しているとの声が聞かれています。
- 2月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回りました。合計は昨年10月以降、5か月連続でマイナスとなりました。自動車ディーラーからは、足もと、店頭では来客が大きく落ち込んでおり、厳しい状況にあるとの声が聞かれており、今後、販売動向へのさらなる影響が懸念されるところです。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、2月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、全ての空港で前年を下回り、全体でも6か月振りに前年を下回りました。この間、旭川空港の国際線は、2月、定期便が前年を下回った上に、昨年あった国際チャーター便が皆減となったため、前年を大きく下回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、2月、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外からのキャンセル等から、前年比減少となりました。旭川市内のホテル客室稼働率も、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、昨年がふっこう割で押し上げられていた反動もあり、前年を下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、2月、ウェイトの大きい旭山動物園をはじめ、

層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄で前年を大きく下回ったほか、利尻・礼文フェリーも前年を下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。

- 足もとでは、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、ホテル・旅館の宿泊や観光施設の入込み等において、さらに大幅な減少がみられています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、2月、宗谷で6か月振りに前年を下回りましたが、上川、オホーツクで前年を上回り、全体でも前年を上回りました。一方、19/4月以降20/2月までの累計では、上川で前年を下回りましたが、宗谷が引き続き前年を上回ったほか、オホーツクも前年並みに回復したことから、全体でも前年を幾分上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、1月、貸家が前年比著増となったほか、持家、分譲とも前年を上回ったことから、全体では前年を大きく上回りました。もっとも、当月の増加は、前年同月が大幅な減少となっていたことの反動による面が大きいと考えられます。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、1月、オホーツクで前年を大きく下回ったものの、上川で著増となったほか、宗谷で皆増となったため、全体でも前年を大幅に上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、1月、旭川、北見で前年を下回ったものの高めの水準を維持しているほか、稚内が前年を大きく上回り、網走も前年を上回りました。新規求人数は、1月、稚内以外は前年を下回り、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、2月も前年を上回りました。2月まで12か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（3月調査）の事業計画では、2019年度の全産業の売上高（前年度比▲1.7%＜前回修正比+0.7%＞）、経常利益（同▲13.3%＜同+6.9%＞）は前年割れを見込んでいますが、いずれも上方修正されました。一方、当期純利益（同+3.7%＜同▲5.4%＞）は今回、下方修正されましたが、前年度比増加の計画を維持しています。こうした中、設備投資計画は、2019年度が大幅な増加（前年度比+58.2%）となったこともあり、2020年度は前年度比▲25.8%と慎重な計画となっています。
- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①観光、消費に関し、感染が拡大している新型コロナウイルス感染症による影響の度合いと、それがどの程度続くか、特に注意して見て参りたいと思います。また、②公共工事について、道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据え、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、③前年度の反動等から

慎重な滑り出しとなった2020年度の設備投資計画が今後、どのような推移を辿るか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上